

2023年3月期第1四半期 決算説明会

2022年7月28日

 **日立建機株式会社**

執行役常務CFO 塩嶋 慶一郎

執行役CMO 松井 英彦

1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役CMO

松井 英彦

地域別市場環境と見通しについて、松井よりご説明致します。

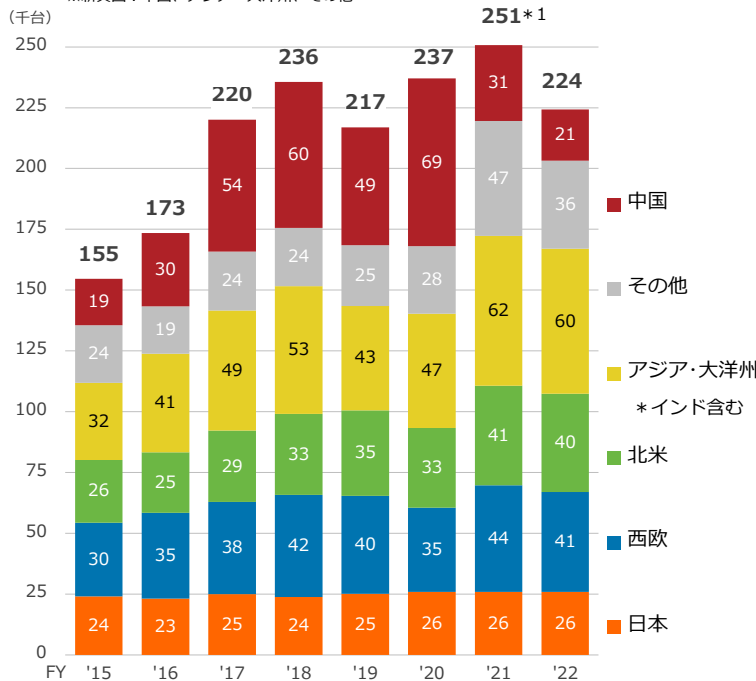
油圧ショベル世界需要推移

HITACHI

Reliable solutions

新興国比率：22年度 52%（前年比△4%）

※新興国：中国、アジア・大洋州、その他



*1：21年度需要は、前回の実推値（4月時点：24.3万台）から修正。需要台数の一部を推定から実績に更新
*需要は日立建機の推定値

地域別需要対前年増減

※当社推定 中国国産メーカー含まず
※複写・転用はご遠慮下さい

	'21	'22
合計	+6%	-11%
中国	-55%	-33%
ロシア・CIS	+81%	-47%
東欧		
アフリカ	+70%	-14%
中東	+77%	-0%
中南米	+59%	-15%
その他	+70%	-23%
アジア	+47%	-3%
インド	+9%	-5%
オセアニア	+43%	-3%
アジア・大洋州	+31%	-3%
北米	+25%	-1%
西欧	+27%	-6%
日本	+0%	-0%

3ページ目で油圧ショベルの世界需要見通しについてご説明申し上げます。

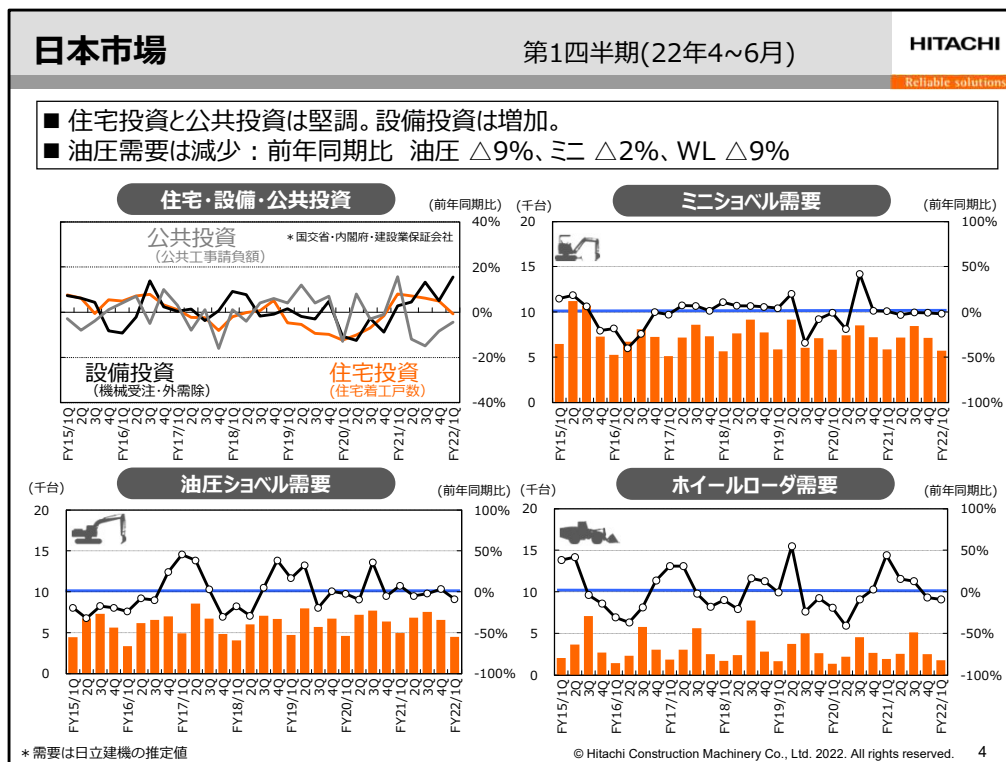
21年度の需要は前回4月の需要見通し24万3千台から中国と日本を除く地域で需要が増加し、前年比6%増の25万1千台となりました。

22年度の需要については前回4月から全地域変更ございません。

インフラ投資の増加や資源価格の高騰に伴い、堅調な需要は継続するものの、中国市場とロシアCISの大幅な需要減と全体的なサプライチェーンの影響が継続するとみております。

全世界合計では前年比で11%減、中国を除く全世界合計では前年比7%減、中国とロシアCISを除くと4%減となる見通しです。

次に、各地域別に第1四半期の結果についてご説明申し上げます。



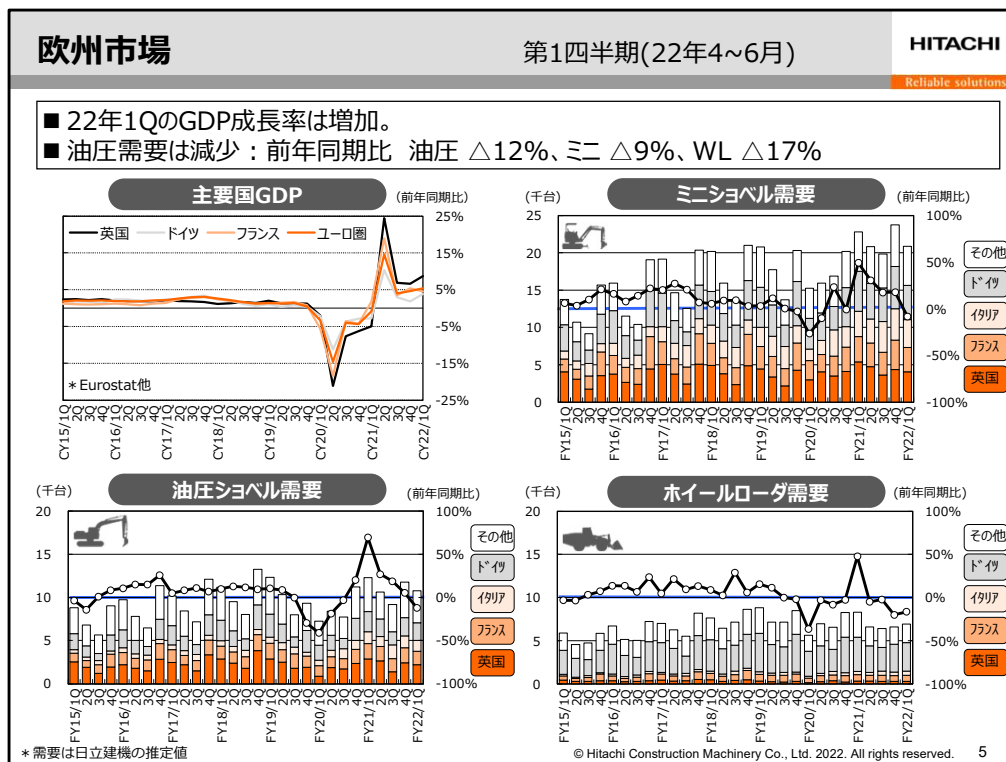
次は4ページ目。日本市場です。

左上、第1四半期の住宅投資と公共投資は堅調に推移しており設備投資も増加しております。

左下、第1四半期の油圧ショベル需要はサプライチェーンの影響により前年同期比で9%減となりました。

右上、ミニショベルは2%減。

右下、ホイールローダーは9%減となりました。



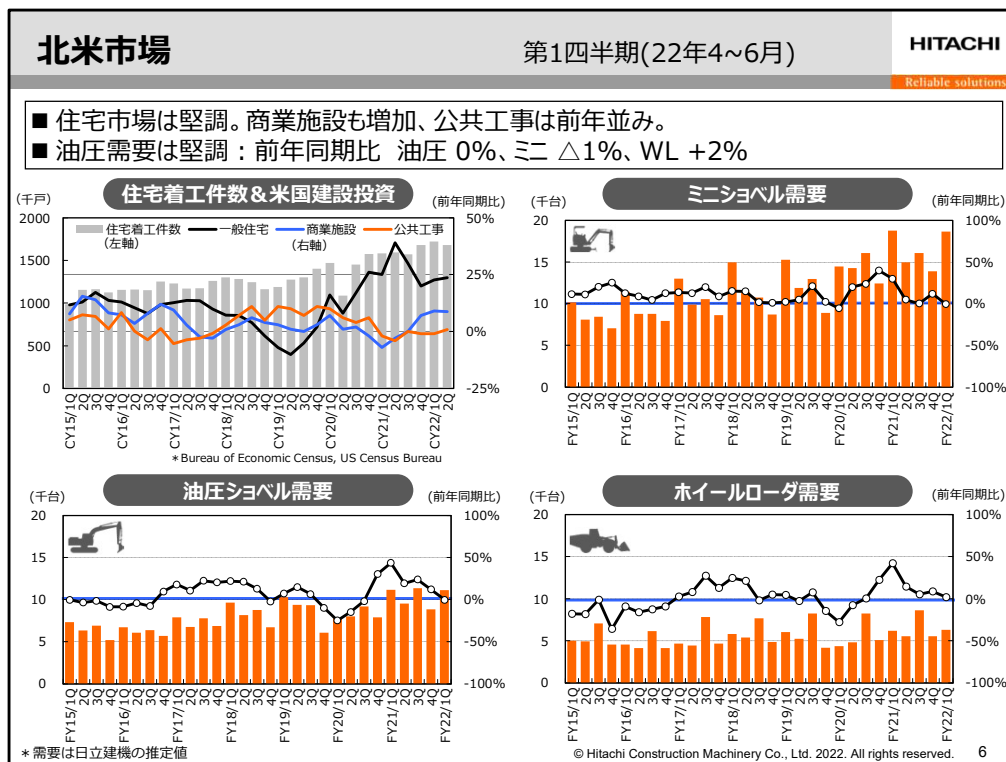
次は5ページ目。欧州市場です。

左上、GDP成長率は、一部の国で伸び率が鈍化するも、ユーロ圏全体では回復基調が継続しております。

欧州復興基金によるインフラ投資の増加はあるものの、ロシア・ウクライナ情勢による規制強化やサプライチェーンの影響が継続しており、左下、第1四半期の油圧ショベル需要は前年同期比で12%減となりました。

右上、ミニショベルは9%減。

右下、ホイールローダーについては17%減となりました。



次は6ページ目。北米市場です。

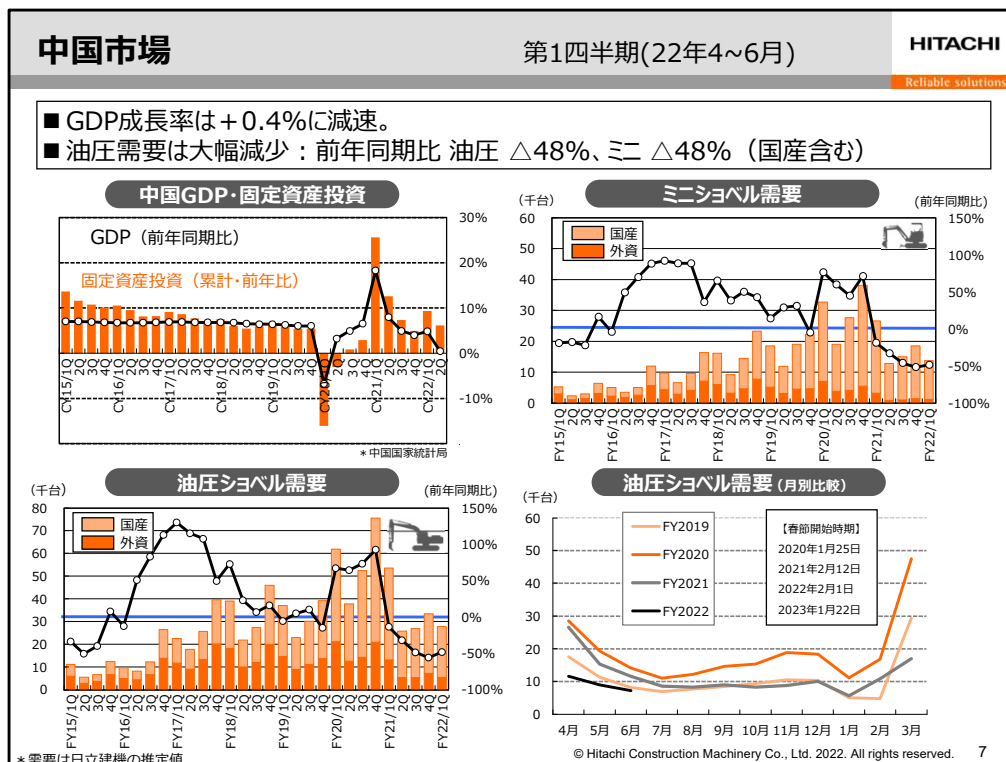
左上、住宅着工件数は金利上昇の影響はあるものの依然として高い水準で推移しており住宅市場建設は堅調です。

その他の建設投資につきましては商業施設は増加し、公共工事は前年並みとなっております。

左下、第1四半期の油圧ショベル需要は前年同期比で横ばい。

右上、ミニショベルは高水準の前年同期比で1%減。

右下、ホイールローダーは2%増となりました。



次は7ページ目。中国市場です。

左上、GDP成長率はコロナウイルス感染対策による活動制限により0.4%増に減速。

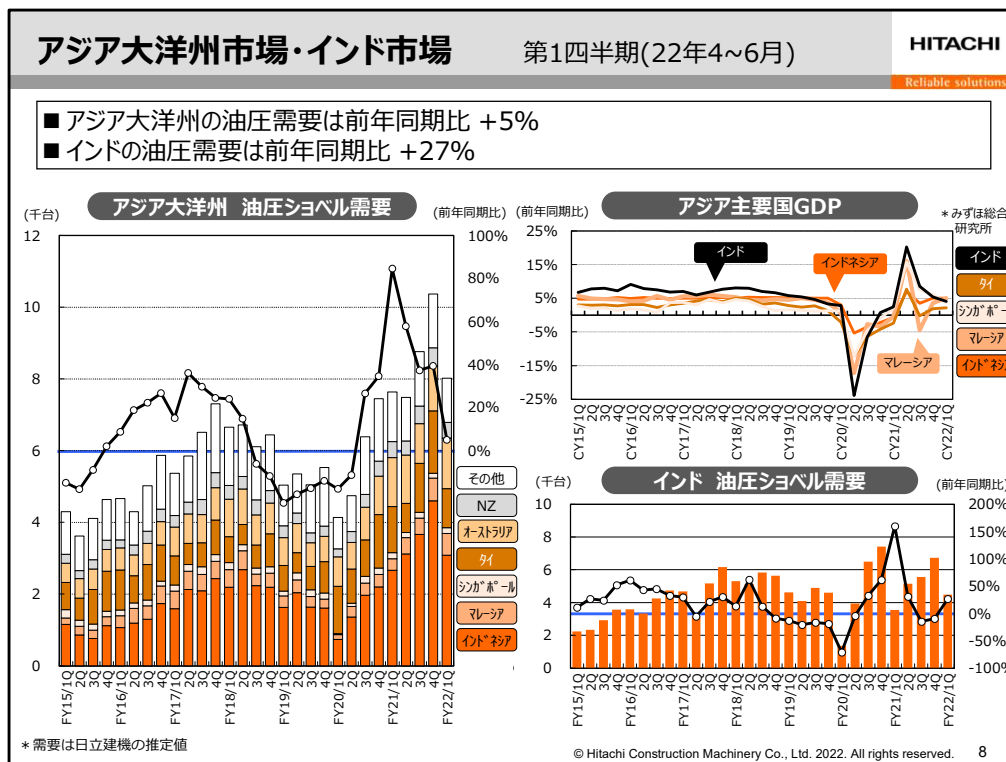
固定資産投資は6.1%増になり1月から3月の9.3%増から伸びが減少しました。

左下、第1四半期の油圧ショベル需要は、機械余剰感の継続と
 コロナウイルス感染急拡大に伴い、国産機を含めた全需要で前年同期比48%減となりました。

内訳として国産機需要は44%減、外資は59%減となりました。

右上、ミニショベルは48%減となりました。

油圧ショベルの月別需要推移につきましては資料の右下をご参照下さい。

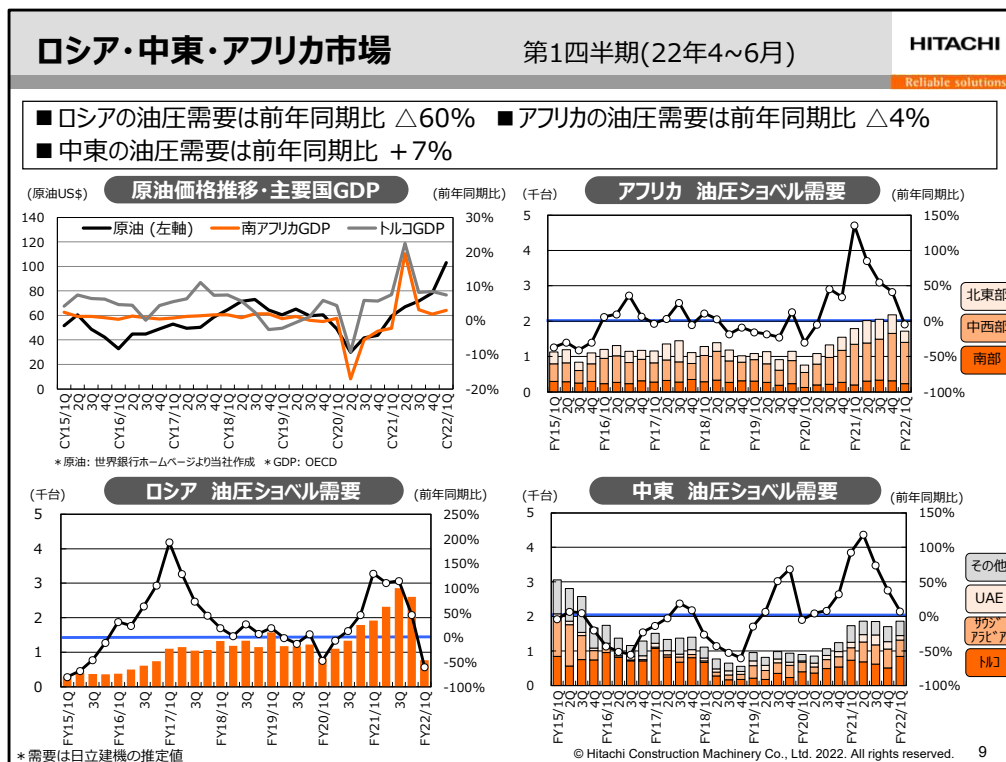


次は8ページ目。アジア大洋州、インド市場です。

右上、主要国のGDPは全地域で前年同期比プラスとなりました。
マレーシアは個人消費の回復もあり高い成長率が継続しております。
その他地域についてもコロナウイルス感染者の落ち着きやインドにおける
行動制限緩和もあり、堅調さを維持しております。

左側、アジア大洋州の第1四半期の油圧ショベル需要は、
好調な林業需要と資源価格の高騰により、前年同期比で5%増となりました。

右下、インドの油圧ショベル需要はコロナウイルス感染の改善や
政府によるインフラへの積極投資もあり、前年同期比で27%増となりました。

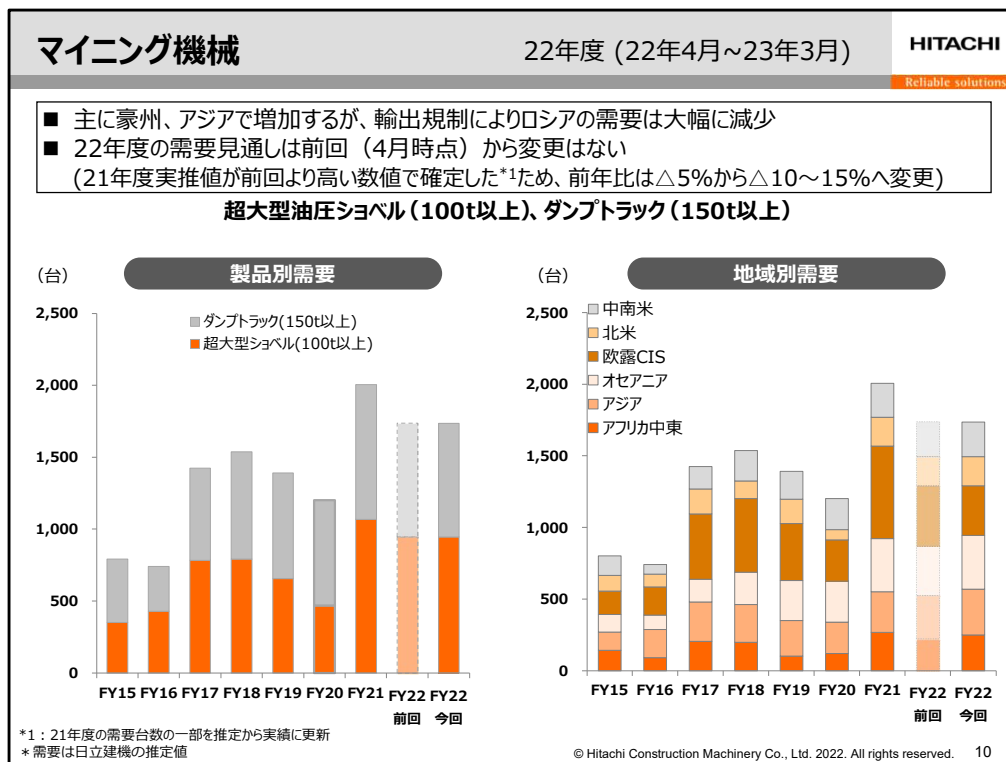


次は9ページ目。ロシア、中東、アフリカ市場です。

左下、ロシアの第1四半期の油圧ショベル需要は、
 ロシア・ウクライナ情勢の影響により前年同期比で60%減と大幅減となりました。

右上、アフリカの油圧ショベル需要は4%減。

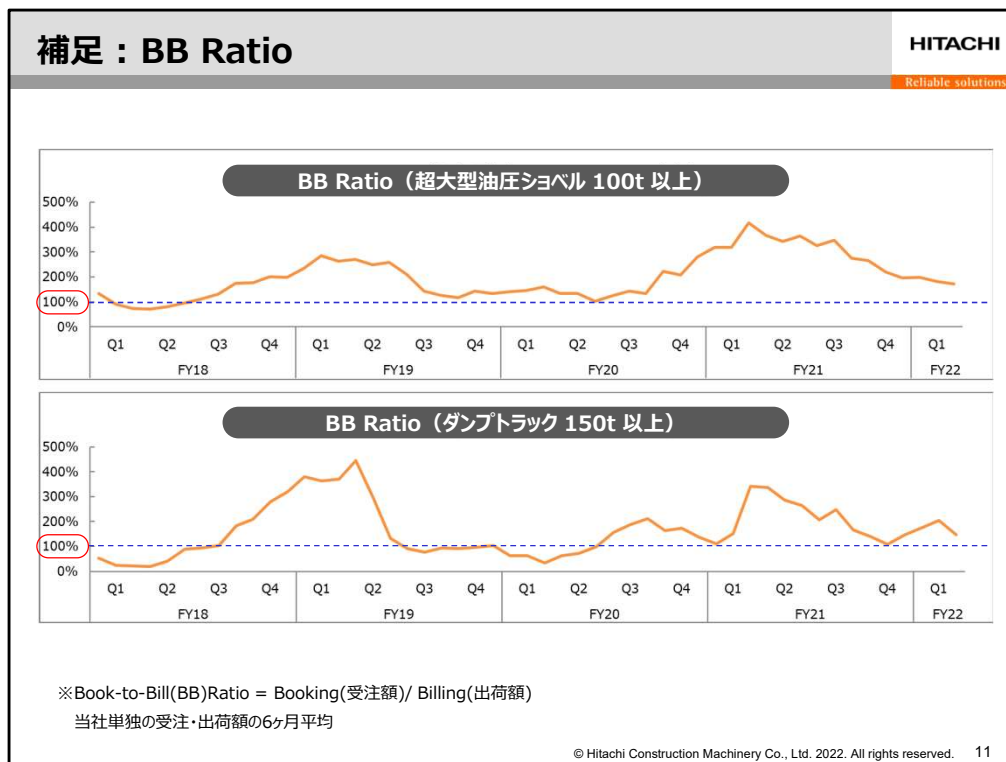
右下、中東の油圧ショベル需要は、サプライチェーンの影響はあるものの
 コロナウイルスからの回復基調の継続と高水準の資源価格に伴い7%増となりました。



次は10ページ目。22年度のマイニング需要は、世界最大マーケットのロシアの需要が各種規制の影響により大幅に減少すると予測します。

一方ロシアを除く他地域、主にオーストラリア、インドネシアを含むアジアでは順調な経済回復を背景に需要は増加。

但し22年度世界需要はロシアの需要減少が大きく影響し、対前年マイナス10%から15%程度と予測します。



続いて11ページ目、BBレシオです。

超大型油圧ショベルは、ロシアでの新規受注活動を停止していますが、オーストラリア、インドネシアを含むアジア、またその他地域での受注は依然堅調で100%以上を維持しています。

ダンプトラックもオーストラリア、CIS地域での受注が進み、100%以上を維持しています。

トピック(1)：サービス部品のグローバル供給体制を強化

米州をはじめグローバルでの部品供給の効率化を推進

- 北米では「ジャクソン部品倉庫」が本格稼働、米州全域向けの供給を開始
- 日本国内では「あみ部品センタ」が稼働、マイニング向け部品をグローバル展開

HITACHI
Reliable solutions

9
企業と地域社会の
基盤をつくる

各地の地域統括会社の部品デポと連携し、グローバルで部品・サービス事業を拡大

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 12

続きまして、12ページからはトピックのご説明です。

日立建機は、サービス部品のグローバル供給体制を強化するため、北米ではジャクソン部品倉庫を2022年3月より本格稼働し、米州全域向けの供給を開始しています。

日本国内では、あみ部品センタを2022年7月より稼働を開始、マイニング向け部品をグローバル展開しています。

「つくば部品センタ」がサービス部品の統括センタを担い、各国の地域統括会社と連携し、グローバルで部品・サービス事業を拡大していきます。

トピック(2)：米州向けの販売活動を推進



Reliable solutions

北米向けの広告キャンペーンを推進

- ・「REPUTATIONS ARE BUILT ON IT」
（信頼の証を乗せて）を旗印に展開
- ・ホイールローダ展開で得た市場評価と信頼性*を
全製品に展開

*北米でのConSite契約率は95%以上（2022年3月末時点）



販売代理店やメディア向けにイベントを開催

- ・北米の販売代理店と経営トップのキックオフを開催、市場ニーズと相互理解を深め合った
- ・業界メディアに新製品を紹介、従来モデルとの違いや最新の通信技術に興味津々



販売代理店との意見交換



住宅・都市土木向けミニショベル



記者との質疑応答

他地域での評価や技術の先進性、ConSiteを訴求、本格的な販売活動を開始

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 13

次は、米州向けの販売活動についてです。

北米では、「REPUTATIONS ARE BUILT ON IT（信頼の証を乗せて）」を旗印に、広告キャンペーンを行っております。

また、現地では、販売代理店やメディア向けのイベントも各種行いました。

販売代理店と日立建機グループの経営トップとで意見交換を行い、市場ニーズや相互理解を深めました。

メディア向けには、新製品である最新の油圧システムを搭載した中型油圧ショベルや、住宅・都市土木向けのミニショベルの説明会を行い、関心を集めました。

他地域での評価や技術の先進性、北米では契約率が95%以上であるConSiteを訴求し、本格的な販売活動を開始しています。

トピック(3)：さまざまな社会貢献活動を実施

HITACHI

Reliable solutions

英国市場で活躍した1980年代の油圧ショベル UH063をオークションに出品、売上金を寄付 (2022年6月～7月実施)

- 売上金額35,000ポンド(約560万円)を
建設労働者を支援する団体などに寄付
- 当時の姿を蘇らせたUH063は
最高落札者のオフィスに展示予定



寄付を記念した小切手贈呈式

かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン 2022に協賛 (2022年4月実施)

- 地元企業として2006年から特別協賛
- 320人の社員が大会運営をサポート



土浦工場前のコースを走るランナー

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 14

14ページには、直近の社会貢献活動を紹介しておりますので、ご参照ください。

2. 2023年3月期第1四半期 決算説明

執行役常務CFO

塩嶋 慶一郎

続きまして、塩嶋でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

連結決算の概要

HITACHI

Reliable solutions

当第1四半期は、COVID-19の影響は縮小し、中国以外の堅調な需要を取り込み、加えて為替円安影響もあり、売上収益は前年同期比17%増収、調整後営業利益は74%増益。

(単位：億円)

（単位：億円）

		22年度 1Q	21年度 1Q	前年同期比 増減率
売上収益		2,675	2,281	17%
調整後営業利益 *1		(7.7%) 206	(5.2%) 118	74%
営業利益		(8.1%) 218	(5.2%) 119	83%
税引前四半期利益		(10.1%) 270	(5.3%) 120	125%
親会社株主に帰属する 四半期利益		(6.9%) 186	(3.1%) 71	161%
EBIT *2		(10.5%) 281	(5.5%) 127	122%
為替	アメリカドル	129.6	109.5	20.1
	ユーロ	138.1	132.0	6.2
	中国元	19.6	17.0	2.6
	オーストラリアドル	92.6	84.3	8.3

*1 [調整後営業利益]は、「売上収益－売上原価－販売費及び一般管理費」により計算している利益指標です。

*2 [EBIT]は、税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 16

先ず、P. 16『連結決算の概要』をご覧ください。

22年度第1四半期の売上収益は、為替円安影響の持上げ効果もあり、前年比17%増の2,675億円となりました。

調整後営業利益は、前年比74%増の206億円で利益率7.7%、
営業利益は218億円で利益率8.1%、
親会社株主帰属の当期利益は、前年比161%増の186億円となりました。

資材費増に加え、調達や物流の混乱により、期待した販売物量には届かなかったものの、バリューチェーン収益を取り込み、前年比を大幅に上回る利益を確保出来ました。
結果、売上収益と最終利益ともに第1四半期としては過去最高となりました。

尚、第1四半期累計期間の為替レートは、前年比で米ドルが20.1円の円安、ユーロも6.2円、元も2.6円、オーストラリアドルも8.3円の同じく円安でした。

連結地域別売上収益

HITACHI

Reliable solutions

中国、中東及び日本を除き各地域で前年同期比増収となり、連結合計では394億円の増収。

(単位：億円)

	22年度 1Q		21年度 1Q		前年同期比	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	430	16%	432	19%	△ 2	△ 1%
アジア	233	9%	163	7%	71	43%
インド	133	5%	99	4%	34	34%
オセアニア	501	19%	397	17%	105	26%
欧州	388	15%	314	14%	74	24%
北米	539	20%	421	18%	118	28%
中南米	73	3%	47	2%	26	55%
ロシアCIS	120	4%	76	3%	44	58%
中東	60	2%	65	3%	△ 5	△ 8%
アフリカ	100	4%	93	4%	8	8%
中国	99	4%	175	8%	△ 77	△ 44%
合計	2,675	100%	2,281	100%	394	17%
海外売上収益比率	84%		81%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 17

次に、P. 17『連結 地域別売上収益』をご覧ください。

当四半期の売上収益は前年比394億円の増収となりました。

尚、その内数として、為替円安の影響を261億円の増収と分析しております。

地域別では、中国、中東及び日本を除き、全地域で前年比増収となりました。

中国では、新型コロナ・ロックダウンの影響による需要減退で、前年比44%もの大幅減収となりました。

一方、北米、オセアニア、欧州、アジアにおいては、引き続き堅調な需要を取り込み、前年比で大幅な増収となりました。

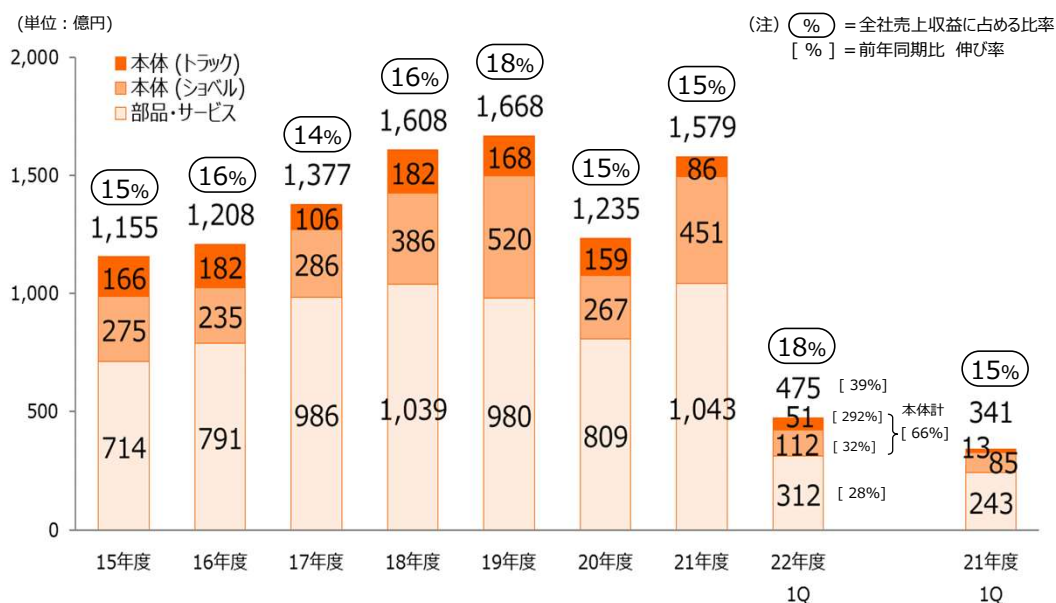
結果、海外売上収益比率は、前年比3ポイント増の84%となりました。

マイニング売上収益推移

HITACHI

Reliable solutions

本体では堅調な需要を取り込み、部品・サービスでも物量増。加えて為替円安影響もあり、前年同期比39%増の475億円。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 18

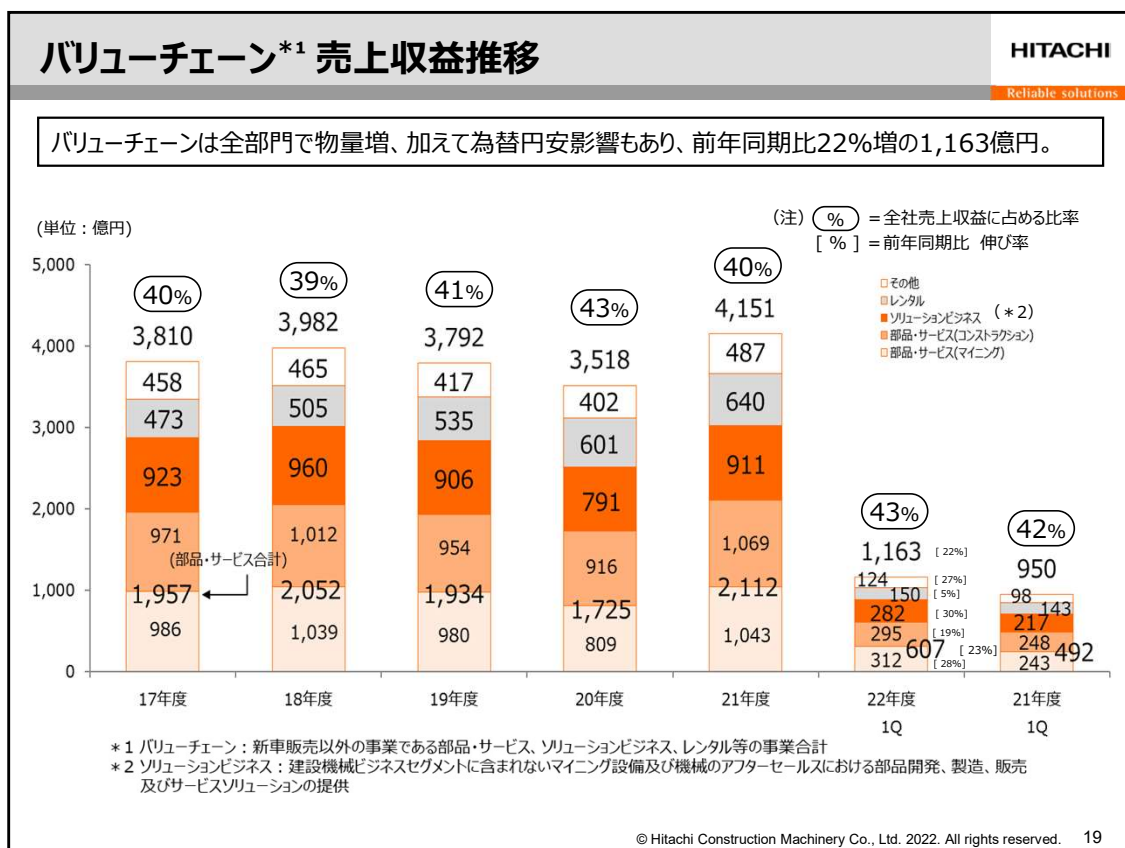
続いて、P. 18『マイニング売上収益推移』をご覧ください。

当四半期のマイニング売上収益は、右側から2本目の棒グラフに示した通り475億円と、為替円安影響もあり、前年比39%の増収でした。

本体売上においては、トラック本体が主にオセアニア地域の貢献で前年比292%の増収に、ショベル本体は北米、CIS地域の貢献で同32%の増収となりました。

また、マイニング部品サービスも同28%の増収となりました。

尚、連結売上収益に占めるマイニングの比率は18%と、前年比で3ポイント増加しました。



続いて、P. 19は『バリューチェーン』の状況です。

同じく右から二番目の棒グラフをご覧ください。

当四半期のバリューチェーン売上収益は、
ご覧の通り、前年比22%増の1,163億円でした。
為替円安影響を11%相当の増収要因と分析し、
現地通貨ベースでは 11%増収と捉えております。

部品サービス収益が前年比23%の増収となった他、
全ての部門で前年実績を上回りました。

尚、連結売上収益に占めるバリューチェーンの比率は43%と、
前年比で1 ポイント増加しました。

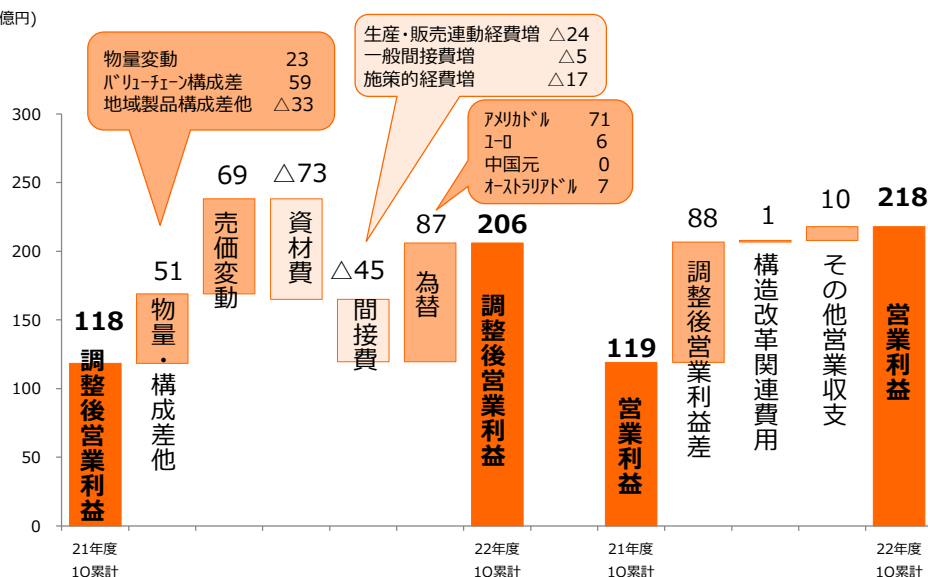
連結損益変動要因

HITACHI

Reliable solutions

調整後営業利益は、物量・構成差、売価アップ、為替円安影響と合わせて、前年同期比で88億円の増益。

(単位：億円)



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 20

続いて、P. 20は当四半期の『連結損益変動要因』です。

調整後営業利益が、前年比88億円の増益となった要因となります。

先ず左端、物量・構成差として、51億円の増益要因と分析しております。
吹出内に表記しております通り、物量増で23億、
バリューチェーン売上の増加による構成差で59億の増益となった一方、
海上運賃等の運搬費増30億を含む地域・製品構成差他33億の減益要因
がありました。

資材費は73億円増加したものの、一方で売価変動として69億円の改善も実現しました。

間接費は、生産・販売連動経費を主体に45億円増加しましたが、
為替円安影響87億円で吸収し、調整後営業利益は、前年比88億増益の
206億円となりました。

ページ右側、営業利益は、調整後営業利益の増益88億に加え、その他営業
収支にオーストラリアの不動産処分益13億を計上した結果、前年比99億の増
益となる、218億円となりました。

要約連結損益計算書

HITACHI

Reliable solutions

親会社株主に帰属する四半期利益は、186億円と前年同期比114億円の増。

(単位：億円)

	22年度 1 Q	21年度 1 Q	前年同期比	
			金額	増減率
売上収益	2,675	2,281	394	17%
売上原価	(72.5%) 1,939	(75.4%) 1,721	219	13%
販売費・管理費	(19.8%) 530	(19.4%) 442	88	20%
調整後営業利益 *1	(7.7%) 206	(5.2%) 118	88	74%
その他の収益及び費用	12	1	11	-
営業利益	(8.1%) 218	(5.2%) 119	99	83%
金融収益及び費用	46	△11	57	-
持分法投資損益	6	12	△6	△51%
税引前四半期利益	(10.1%) 270	(5.3%) 120	149	125%
法人所得税費用	74	42	33	78%
四半期利益	(7.3%) 195	(3.4%) 78	117	149%
親会社株主に帰属する 四半期利益	(6.9%) 186	(3.1%) 71	114	161%

*1 [調整後営業利益]は、「売上収益－売上原価－販売費及び一般管理費」により計算している利益指標です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 21

次に、P. 21『要約連結損益計算書』をご覧ください。

ここまで、売上収益から営業利益までご説明して参りましたので、
このページでは、営業外損益以下を簡単にご説明します。

金融収益・及び費用は、主にルーブル高による為替差益の影響にて、
前年比57億円の改善となりました。

一方、持分法投資損益は、主に米州でのディア社との合併会社利益の
消失により同6億円の減益でした。

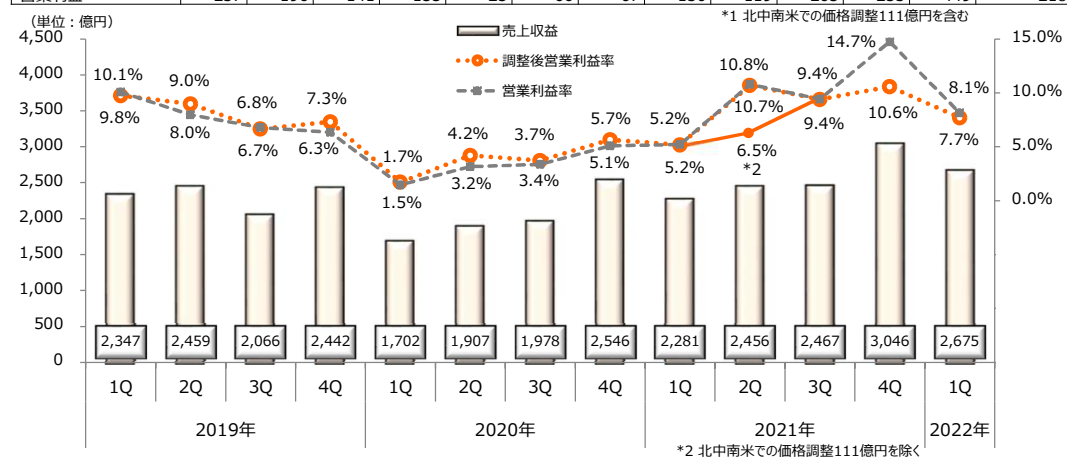
親会社株主に帰属する四半期利益は、同114億増益の186億円となりました。

要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

HITACHI

Reliable solutions

	2019年				2020年				2021年				2022年
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q*1	3Q	4Q	1Q
売上収益	2,347	2,459	2,066	2,442	1,702	1,907	1,978	2,546	2,281	2,456	2,467	3,046	2,675
調整後営業利益	229	221	138	179	29	80	74	144	118	263	232	322	206
営業利益	237	196	141	155	25	60	67	130	119	265	233	449	218



四半期別 為替レート	2019年				2020年				2021年				2022年
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
アメリカドル	109.9	107.4	108.8	108.9	107.6	106.2	104.5	105.9	109.5	110.1	113.7	116.2	129.6
ユーロ	123.5	119.3	120.3	120.1	118.5	124.1	124.5	127.7	132.0	129.8	130.1	130.4	138.1
中国元	16.1	15.3	15.5	15.6	15.2	15.4	15.8	16.4	17.0	17.0	17.8	18.3	19.6
オーストラリアドル	76.9	73.6	74.3	71.8	70.7	75.9	76.3	81.8	84.3	80.9	82.9	84.0	92.6

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 22

続いて、P. 22は四半期別の状況です。

一番右側の22年度第1四半期をご覧ください。

当四半期の売上収益2,675億円は、昨21年度第1四半期と比較すると、物量増に加えて、為替円安影響261億円を含めて394億円的大幅な増収となりました。

調整後営業利益率も、折れ線グラフに示した通りに、当四半期は7.7%となりました。

要約連結財政状態計算書

HITACHI

Reliable solutions

当四半期末は、現預金や棚卸資産の増に加え為替円安影響により総資産1,236億円の増加。

(単位：億円)

	(A) 22年1Q	(B) 21年度末	(C) 21年1Q	(A)-(B) 増減		(D) 22年1Q	(E) 21年度末	(F) 21年1Q	(D)-(E) 増減
現金及び現金同等物	1,489	943	727	546	営業債務及びその他債務合計	2,454	2,522	1,919	△68
営業債権	2,517	2,663	1,952	△146	社債及び借入金	4,373	3,531	3,283	842
棚卸資産	4,191	3,683	3,083	508	負債の部合計	8,314	7,416	6,468	898
流動資産合計	8,617	7,644	6,123	974	(親会社所有者帰属持分比率)	(41.8%)	(43.4%)	(42.6%)	(△1.6%)
非流動資産合計	6,714	6,452	6,122	262	資本の部合計	7,017	6,679	5,777	338
資産の部合計	15,331	14,096	12,245	1,236	負債・資本の部合計	15,331	14,096	12,245	1,236
非流動を含めた営業債権	2,954	3,090	2,360	△136					
棚卸資産 内訳									
本体	1,234	1,089	844	145	有利子負債計	(28.5%) 4,373	(25.1%) 3,531	(26.8%) 3,283	(3.5%) 842
部品	1,414	1,326	1,043	88	現金及び現金同等物	1,489	943	727	546
その他	1,543	1,268	1,196	275	ネット有利子	(18.8%)	(18.4%)	(20.9%)	(0.4%)
棚卸資産計	4,191	3,683	3,083	508	負債	2,884	2,589	2,556	296
手持日数 (分母は売上収益)				(単位：日)	ネットD/エレシオ	0.45	0.42	0.49	0.03
営業債権 (非流動含む)	101	110	99	△9					
棚卸資産	144	131	129	13					
営業債務	51	51	47	△1					
正味運転資金	190	186	178	4					

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 23

続いて、P. 23は22年6月末の連結貸借対照表です。

前年度末22年3月末比較では、営業債権を136億縮減しました。

棚卸資産は物流混乱、調達不足の影響で、新車、並びに半製品在庫を主体に508億の増加となりましたが、為替円安影響による増加相当を222億と分析しております。加えて、現預金を546億、非流動資産を建物、機械設備主体に262億増加したことから、総資産は15,331億円と、前年度末より1,236億増加となりました。

手持日数では、営業債権を101日と前年度末より9日短縮したものの、棚卸資産は13日延伸の144日となりました。

この結果、正味運転資金手持日数は前年度末よりも4日延伸した190日となりました。

右側の有利子負債は、前年度末より842億増加しましたが、一方で現預金を積み増したこともあり、ネット有利子負債は296億増加の2,884億円となりました。

資本合計は7,017億円で、親会社所有者帰属持分比率は41.8%、ネットD/エレシオは0.45でした。

連結キャッシュ・フロー

HITACHI

Reliable solutions

フリー・キャッシュ・フローは前年同期比11億円の増。

(単位：億円)

	22年度 1Q	21年度 1Q	前年同期比 増減額
四半期利益	195	78	117
減価償却費	344 149	212 133	133 16
売掛金及び受取手形の増減	428	186	242
棚卸資産の増減	140 △ 258	91 △ 103	49 △ 155
買掛金及び支払手形の増減	△ 29	9	△ 38
その他	△ 383	△ 236	△ 146
営業活動に関するキャッシュ・フロー	102	67	35
営業キャッシュ・フロー・マージン率	3.8%	2.9%	0.9%
投資活動に関するキャッシュ・フロー	△ 106	△ 82	△ 24
フリー・キャッシュ・フロー	△ 4	△ 15	11
財務活動に関するキャッシュ・フロー	466	△ 66	532

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 24

続いて、P. 24は連結キャッシュフローです。

当四半期の営業キャッシュフローは102億円のポジティブを確保しましたが、棚卸資産の増加が大きく、前年比で35億の収入増に留まりました。

一方、投資キャッシュフローでは106億円の支出と、前年比でも24億増加したことから、フリーキャッシュフローは4億円の支出となりました。

要約連結損益計算書(予想)

HITACHI

Reliable solutions

22年度連結損益計算書は、ロシア事業リスクなどを織り込むも、予想為替レートの為替円安影響等により、前年比150億円の増収を見込む。

注. < >内は22年4月公表値

(単位: 億円)

	22年度 予想			21年度 実績	前年比	
					金額	増減率
売上収益	<9,600>	10,400		10,250	150	1%
調整後営業利益	<8.3%>	(9.0%)		(9.1%)	(△0.1%)	
	<800>	940		935	5	1%
営業利益	<7.9%>	(8.7%)		(10.4%)	(△1.7%)	
	<760>	900		1,066	△ 166	△ 16%
税引前当期利益	<7.7%>	(8.7%)		(10.8%)	(△2.2%)	
	<740>	900		1,109	△ 209	△ 19%
親会社株主に帰属する当期利益	<4.7%>	(5.5%)		(7.4%)	(△1.9%)	
	<450>	570		758	△ 188	△ 25%
EBIT	<768>	950		1,140	△ 190	
通 貨	1Q 実績	2Q-4Q 予想	年度 予想	21年度 実績	前年比	
アメリカドル	129.6	130.0	129.9	112.6	17.3	為替感応度は 参考資料1を ご参照ください
ユーロ	138.1	140.0	139.5	130.6	8.9	
中国元	19.6	19.5	19.5	17.5	2.1	
オーストラリアドル	92.6	90.0	90.6	83.0	7.6	
1株当たり配当金 *1	未定			110円	-	

*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%程度、もしくはそれ以上をめざします。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 25

続いて、今回の22年度業績予想をご説明します。

スライドP. 25『要約連結損益計算書(予想)』をご覧ください。

これまでご説明して参りました今年度の需要環境、並びに当四半期の実績、先行きの経済状況、為替動向を鑑み、今年度業績予想については前回4月の公表値を上方修正します。

具体的には本スライドの通り、売上収益1兆400億円、調整後営業利益940億円、親会社株主に帰属する当期利益570億円と致します。

調整後営業利益率は前年度同等の9.0%を見込みます。

ウクライナ情勢の長期化により、ロシア・CIS、欧州、中国地域での需要減退リスク、並びに資材費上昇リスクについては4月時見通しを踏襲。

加えて今回は、当四半期に顕在した調達・物流リスクが第2四半期以降も同等レベルで継続することを想定し、追加リスクを織込みました。

尚、第2四半期以降の予想為替レートについては、米ドル：130円、ユーロ：140円、中国元：19.5円、オーストラリアドル：90円と夫々円安方向に見直しました。

P. 30に参考資料1.として、第2四半期以降の売上収益と調整後営業利益に影響する為替感応度も掲載しましたので、ご参考願います。

要約地域別売上収益(予想)

HITACHI

Reliable solutions

22年度連結売上収益は、特にロシアCISや中国で大きく減収の見通し。

(単位：億円)

	22年度 予想		21年度 実績		前年比	
					金額	増減率
日本	2,022	19%	2,169	21%	△147	△7%
アジア	1,018	10%	864	8%	153	18%
インド	581	6%	572	6%	9	2%
オセアニア	1,859	18%	1,677	16%	182	11%
欧州	1,215	12%	1,242	12%	△27	△2%
北米	2,308	22%	1,964	19%	344	17%
中南米	259	2%	227	2%	32	14%
ロシアCIS	197	2%	386	4%	△190	△49%
中東	187	2%	192	2%	△4	△2%
アフリカ	454	4%	435	4%	19	4%
中国	301	3%	521	5%	△220	△42%
合計	10,400	100%	10,250	100%	150	1%
海外売上収益比率	81%		79%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 26

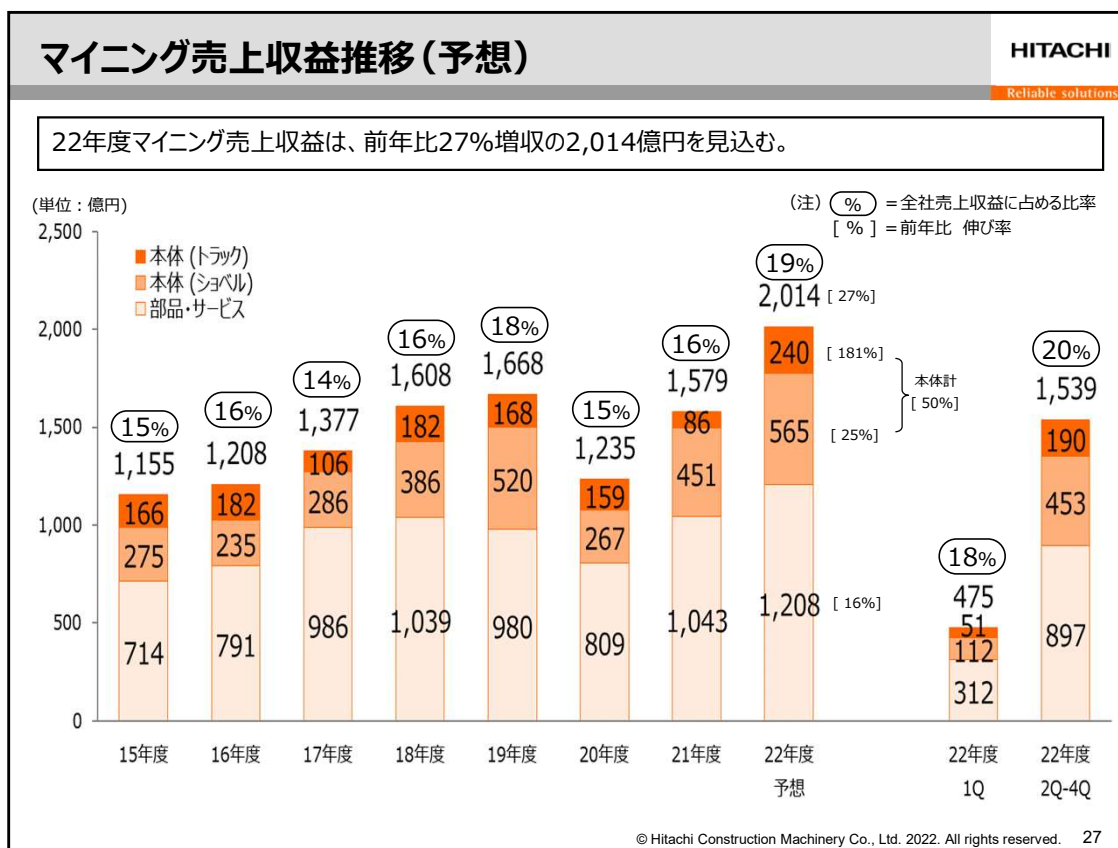
続いて、P. 26は『地域別売上収益の予想』です。

当年度売上収益については、前年比150億円増収の1兆400億円に見通しを修正致します。

尚、為替円安影響を1,061億円の増収効果と分析します。

中国、ロシア・CISで大きく減収を見込む一方、
北米、オセアニア、アジアでは為替影響も大きく、増収を見込みます。

尚、海外売上高比率は、前年比2ポイント増の81%を見込みます。



次に、P. 27は『マイニング売上収益推移（予想）』です。

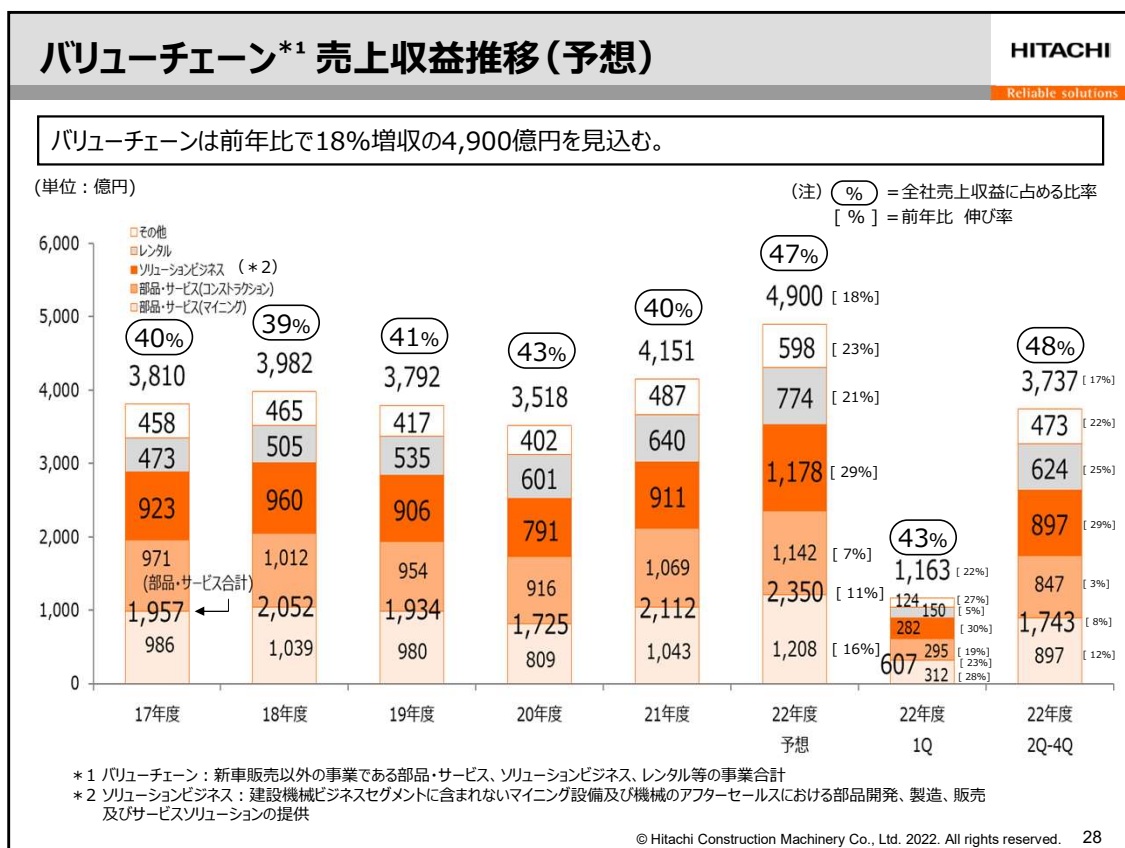
本年度のマイニング売上は、前年比27%増収の2,014億円を見込みます。

機械本体はトラックとショベル合計で、前年比50%の増収を見込む他、部品サービスも同16%増収の予想です。

売上構成比も、同3ポイント増加の19%を見込みます。

尚、P. 31に参考資料 2. として地域別の『マイニング売上収益内訳』を掲載していますので、ご参考願います。

プレゼンスの高いアジア・大洋州での増収に加え、米州においても前年比で約200億円の増収を見込みます。



続いて、P. 28は『バリューチェーン売上収益推移（予想）』です。

当年度のバリューチェーン売上は、前年比18%増収の、4,900億円を見込みます。

上段2段目のレンタルでは前年比21%増の774億円、中央のソリューションビジネスにおいても同29%増の1,178億円を夫々見込みます。

部品サービスは、コンストラクション向け、マイニング向け合計で前年比11%増収の2,350億円を見込みます。

売上構成比は、前年度7ポイント増の47%を見込みます。

連結損益変動要因(予想)

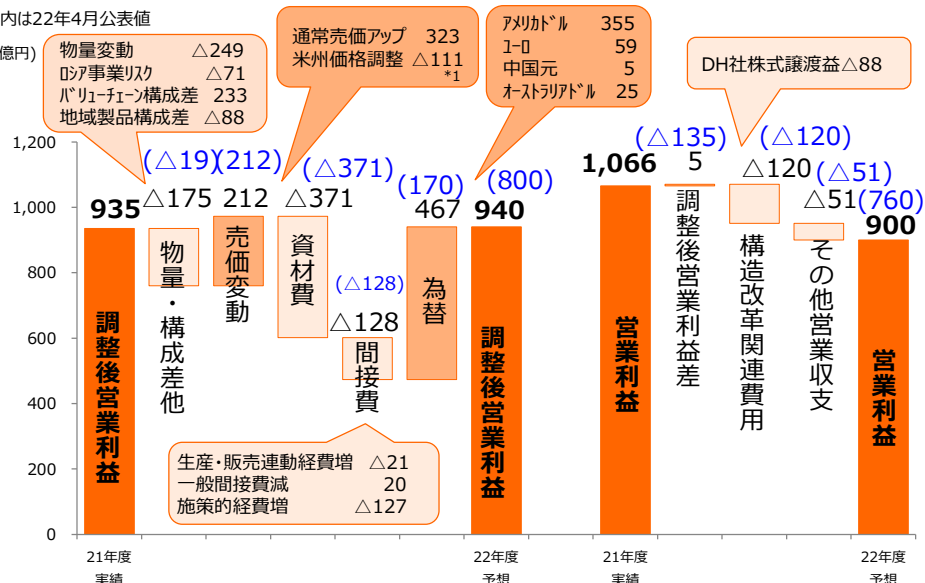
HITACHI

Reliable solutions

22年度の調整後営業利益は、調達リスク、ロシア事業リスクや資材費アップはあるも、為替円安影響などにより前年比5億円の増益を見込む。

注.()内は22年4月公表値

(単位: 億円)



*1 21年度JDとの契約解消に伴う一時的な価格調整金が増加したため

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 29

ご説明の最後となります、P. 29『連結損益変動要因(予想)』をご覧ください。

22年度調整後営業利益が前年度とほぼ同額の940億円となる要因をご説明します。

まず、物量・構成差他による減益を175億見込みます。

内訳として、年初に見込んだロシア事業リスク、資材費上昇が当四半期から顕在化したことを踏まえ、今回、調達・物流リスクを追加で100億織込み、物量変動で249億の減益を見込みます。

地域・製品構成差でも、運搬費増90億を追加織込みし、88億の減益を見込みます。

一方で、資材費 371億 増に対処すべく、売価改善による増益212億を、前回4月時通しと同額で見込みます。間接費も前回同額の128億 増を見込みます。

為替円安影響による増益効果を 467億織込むことで、調整後営業利益は前年比5億円の増益を見込みます。

ページ右側の営業利益については、前年度に享受した株式売却益等の特別利益が当年度には見込めないことから、前年比166億減益となる900億円を予想します。

30 ページ以降に参考資料を3枚付けておりますのでご参照下さい。

4月に織り込んだ資材費増や ロシア情勢の影響による欧州も含めた需要減等に加え、今回は調達や物流の混乱、運搬費増加のリスクも織込みました。これらのリスクに対しては、あらゆる対策を講じていく所存です。

以上で説明を終わります。有難うございました。

参考資料 1 : 為替レート及び為替感応度

HITACHI

Reliable solutions

22年度予想為替レートは、足元の金融情勢を鑑み、主要通貨は前回より円安に設定。

為替レート及び為替感応度

(単位:億円)

通貨	為替レート				感応度(2Q-4Q)		
	22年度			21年度 実績	基 準	売上収益	調整後 営業利益
	1Q 実績	2Q-4Q 予想	年度 予想				
アメリカドル	129.6	130.0	129.9	112.6	1円円安になった場合	24	16
ユーロ	138.1	140.0	139.5	130.6	1円円安になった場合	6	5
中国元	19.6	19.5	19.5	17.5	0.1円円安になった場合	2	1
オーストラリアドル	92.6	90.0	90.6	83.0	1円円安になった場合	19	2

参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable solutions

(単位 : 億円)

		22年度予想			21年度実績			差額		
		1Q	2-4Q累	年度	1Q	2-4Q累	年度	1Q	2-4Q累	年度
米州	ショベル	58	208	265	19	75	94	39	133	171
	トラック	9	39	48	7	19	26	2	20	22
	計	67	246	313	26	94	120	41	152	193
欧阿中東	ショベル	80	195	275	62	213	275	19	△ 18	1
	トラック	47	146	193	37	141	178	10	5	15
	計	127	342	468	99	354	453	28	△ 12	16
アジア・大洋州	ショベル	183	673	855	162	594	756	20	79	99
	トラック	93	270	363	51	179	231	41	91	132
	計	275	943	1,218	214	773	987	62	170	231
中国	ショベル	2	5	6	2	4	6	△ 0	1	0
	トラック	0	1	1	0	1	1	△ 0	0	△ 0
	計	2	6	7	2	5	7	△ 0	1	0
日本	ショベル	4	2	7	1	12	13	3	△ 9	△ 6
	トラック	0	0	0	0	0	0	0	△ 0	△ 0
	計	4	2	7	1	12	13	3	△ 9	△ 6
合計	ショベル	326	1,083	1,409	246	897	1,144	80	185	266
	トラック	148	456	605	95	340	436	53	116	169
	計	475	1,539	2,014	341	1,238	1,579	133	301	434

参考資料 3 : セグメント情報

HITACHI

Reliable solutions

下記ソリューションビジネスの調整後営業利益は、P P A (資産再評価)償却費として
22年度第1四半期実績3億円、22年度予想12億円をそれぞれ含む。

(単位：億円)

22年度 1Q	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	2,394	291	△ 10	2,675
調整後営業利益	7.8% 187	6.6% 19	-	7.7% 206

(単位：億円)

22年度 予想	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	9,222	1,178	0	10,400
調整後営業利益	9.0% 826	9.7% 114	-	9.0% 940

*1 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに帰属しない全社に係る金額です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 32

日立建機グループでは、持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標のうち、
10項目の重点目標を設定しています。
当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあり得ます。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

【商標注記】

「Lumada」は、株式会社日立製作所の登録商標です。「AERIAL ANGLE」「ConSite」「Solution Linkage」は、日立建機株式会社の登録商標です。

END **日立建機株式会社**